

高層住宅での保育



八森佐知子

私は現在五歳の娘と十二階のビルの七階に住んでいます。初めてこの家に入った六年前には、多くのビルを見渡せるのを目新しく感じたり、空中に浮かんでいるような不安定さを感じたのですが、今では慣れてしまい何とも思わなくなりました。親にとってここでの生活は、交通の便や買い物の便が良く、無駄な動きの少ない生活で利点が多いと言えます。

しかしそこで生活する子どもにとっては、利点もありますが子どもの年齢によって不向きなところもあり、親にはそれを補う心づかいが必要だと思います。

不便を感じたのは、子どもが歩けるようになった一歳頃から幼稚園に通うようになる三歳迄でした。まず一戸建ての家のように

玄関からすぐに道路に出られないで、近くの家に一人で遊びに行くことが出来ない、庭や道路で遊べないので遊びが限られることがあります。さらにエレベーターや階段での登り降りが危ないため親がいつもついており、親の目が行き届き過ぎること、高層住宅では家というより部屋の集合であり、親の都合で出不足になると、子どもは密室に閉じこめられた感じになり、外に出たがって騒ぐようになると、などもあります。親はなるべく子どもを外に連れ出して遊ばせることが大切だと思います。庭がないため土や砂や水で遊ぶことが少ないこともあります。我家ではベランダにペビーバスの砂場を作り、ホースで水を出して遊べるようにしたり、風呂場で水遊びをさせたこともあります。しかし子ども

もが幼稚園に行き始め、水遊びや、泥、砂遊びが出来るようになつてからは、ベランダで遊ばなくなり、止めてしまいました。現在は、果物の種を植えたり、四季の花や野菜を植木鉢で育てていますが、娘は喜んで水をやっています。

マンションは空間を最大限に使つてるので無駄がほとんどありません。廊下が暗かつたり、ぽかんと出来る空間がないので、家のイメージが一軒家のイメージと違うと思います。合理的空間で生活している子どもには、さかさまの非合理的な、どろどろとした遊びが大切だと思います。娘の通つている幼稚園では、水や泥などで思いっきり遊ばせてくれるので、子どもはとても喜んでいます。

集合住宅の子どもは、友達が出来やすい利点があります。家が近いことや、ほとんど同じ環境なので行き来がとてもしやすく、食事をしたり、夜まで遊んだりすることもよくありました。

子どもが幼稚園に行き始めると、友達の家に寄つたり、公園や図書館や児童館や小学校などで遊び出すようになり、高層住宅に住んでいる不満は少なくなつてきました。このようになつてくると、高層住宅に住んでいるという束縛よりも、都会に住んでいる束缚の方が強くなつてきています。

私達は娘が四歳になる前も自然の中に連れ出していたのです

が、その頃は東京に帰つて來ても文句を言いませんでした。しかし四歳を過ぎると、大都會らしさを理解でき、三ヶ月滞在したサンフランシスコから日本へ帰るのを非常にいやがつて泣いたり、スキー旅行のバスの中で、東京に帰るのがいやだと一時間以上も泣き続けました。娘はサンフランシスコのゴールデンゲートパークやヨセミテ国立公園でリスにピーナッツをやり、何匹ものリスに囲まれて時を過すのが一番好きでしたが、東京に帰つて来てからは、東京は車が多い、人が多い、道路が狭い、草や木が少ない、きれいじやないなどと親がびっくりするほど都會の悪口を言うようになりました。スキーの帰り道で娘がスキー場に住みたいと言うので、大好きな幼稚園はどうするのと聞くと、ここから通えばいいと言います。そこでパパの仕事で東京に帰らなくてはならないと言うと、パパも自分とここから一緒に電車で通えばいいではないかと提案していました。東京に帰つて來ても、思い出すと涙ぐみながらスキーに行きたいとか、サンフランシスコに帰りたいと何回も言つており、スキー場は春や夏には雪がないのと言うと、なくともいいから行きたいと言います。

なまじ都会的な環境にいるために子どもには自然との出会い、生活がとても大切であると非常に感じており、その機会をなるべく多く与えていくのが親の努めだと思っております。